

## 社会的養護からの自立を支援する『子どもの機会均等プロジェクト』

アクセンチュア株式会社 子どもの機会均等プログラム・社員ボランティアの皆様

【パートナー団体：一般社団法人わたしのみらい】

※申請は一般社団法人わたしのみらい

### ■活動の目的:

『子どもの機会均等プロジェクト』は、当法人がアクセンチュア株式会社と協働している活動です。社会的養護を必要とする子どもたちが、社会に出て自立し、自分らしく生きるために、さまざまな支援を展開するのが目的です。同社のコーポレート・シチズンシップ(社会貢献)における社員ボランティア活動の理念は、「世の中によいインパクトを与える変革者の輩出」であり、本プロジェクトの目的と合致しています。

### ■活動を始めたきっかけ(活動開始:2019年1月):

毎年約二千人が社会的養護から自立しますが、その支援は充実していません。全国的な実態を見ると、就職や進学のために上京した子が新しい生活の場で支援に結びつかず貧困に陥るケースが多数あります。全国を対象とした支援の充実を図ろうとしていた矢先、世界的に活躍するアクセンチュアとのパートナーシップが実現しました。同社には東京・福島・大阪など国内にも多くの拠点があり、各地のご協力をいただくことで支援を広げる基盤を得ました。

### ■活動内容(2022年度 参加実数 86名):



全国の社会的養護のもとに育つ子どもを参加対象とし、自立に必要なスキルを磨くプログラムを展開しています。金融・商社・弁護士・大学等、普段高校生が接する機会の少ない社会人を講師に招き、職業選択の幅をひろげられるような講義を行うスクール形式と、進路選択・資金計画・小論文や自己PRの作成など一人ひとりの強みを引き出し、具体的な形へ落とし

込むグループワーク形式の2つのプログラム(以下、“プログラム”)を主軸としています。

さらに、必要な場合は個別相談の時間を設け、施設職員・里親と連携しながら個々の悩みに寄り添い、問題解決に伴走します。当法人のスタッフが施設を訪問し、施設職員と一緒に施設のニーズに合った自立支援をご提案・計画・実施する、施設訪問型のプログラムも実施しています。

アフターケアも行っており、概ね30歳までの社会的養護の卒業生も参加可能としていて、公式LINEでいつでも悩み相談に応じたり、希望者にお米等の品を定期的に贈呈したりしています。卒業生の状況に合わせ、個別に相談対応やスキルアップトレーニングを実施しているほか、年間数回、卒業生のみが集まる交流会を開いています。

プログラムは学びの場としてだけでなく、参加者の仲間作りや施設職員や里親などの引率者の情

報交換の場としても機能します。普段の生活圏を離れてプログラムに参加することで、社会の広さを体感し、自分をより客観視できます。プログラムで得た知識を持ち帰ることで、施設内の自立支援プログラムをさらに充実させるきっかけにいただき、一人でも多くの子どもの自立への不安を自信に変えて社会に送り出し、社会に出た後も「第三の場」として安心して身を寄せられる場となれるよう、活動を続けています。



アクセンチュアの皆様には、これら各支援に企画から参加してもらい、講師役をはじめグループワークのファシリテーターや、個別相談にもプロのコンサルタントとして携わり、子どもたちからも信頼を集めています。

#### ■活動の成果:

世界で活躍する企業人と話す機会を得ることは、参加者にとって非常に良い刺激となります。団体設立当初から継続して参加しているボランティア社員も多く、親しみやすい身近な相談役や、人生の尊敬する先輩として子どもたちとの関係を築き、子どもたちの知見を広げる大きな要素となっています。

2022年度はプロジェクト全体で9の都府県から延べ156人の子どもと施設職員・里親さんにご参加いただきました。

#### ■強調したいこと:

アクセンチュアの皆様は、どなたも子どもたち一人ひとりの悩みに丁寧に寄り添い、時には子どもたちから「今日の悩みはアクセンチュアの〇〇さんに相談したい！」と指名が入ることもあるほど、プログラムを通じて子どもたちの身近な存在となっています。毎回のプログラムの後の振り返りの時間でも、次回への課題を積極的に提案していただき、子どもたちだけでなく当法人のスタッフもその力に支えられています。また、アクセンチュアのコーポレート・シチズンシップ事務局がハブとなり、プログラムについて社内で周知してもらうことで、リピーター含めより多くの方々にご参加いただいております。

「企業や公的機関の複雑な課題を、共に解決し新たな挑戦をする」というアクセンチュアのミッションと、当法人の「可能性をひろげ、なりたい自分になれるよう、一人ひとりの自立を共に考え、共に歩む」という目標は親和性が高く、今後もその相乗効果により、子どもたちのニーズに沿った、更に発展した自立支援プログラムを提供したいと思っております。